

歴博をあるく

総合展示の住宅巡り

広報部会



第4展示室 尾形家・全景



第4展示室 尾形家・囲炉裏



第5展示室 京都西陣の台所



第5展示室 同潤会アパート



第6展示室 赤羽台団地

総合展示には沢山の住宅が展示されています。そのいくつかの住宅の台所を中心に巡りました。

まず第4展示室の尾形家住宅。2011年の東日本大震災で被災した、その復元です。文化7年(1810)に建てられ、東日本大震災まで居住していたとのこと、思いはひとしお心に迫ります。広い土間は仕事の場になっていた。隣接する板敷きの囲炉裏は食事や家族団欒の場だった。座敷へ上がることができる。ここは接客や神仏を祀る空間として用いられてきた。かなり重厚に感じられます。

第5展示室には京都西陣の台所(明治～大正)があります。京都の町家は通り庭(細長い土間)が特徴。この壁際に井戸・流し・^{かまど}竈・戸棚が並んでいる。この時代、他の地域ではしゃがんで使う「流し」が一般的であったのに、近畿地方では17世紀から「^{たちなが}立流し」が普及していたそうです。

その前には同潤会アパート(大正)があります。同潤会は1923年の関東大震災による罹災地域の仮設住宅の建設供給を行った後、木造建売住宅及び鉄筋コンクリートアパートの建設を行った。西陣の台所はつるべ井戸と薪だったのが、同潤会の台所は水道とガスに替わっている。合理的な台所は家事労働を軽減させるものとして、人々のあこがれの的であったようだ。

第6展示室には日本住宅公社の赤羽台団地(昭和37年建設)がある。台所は同潤会アパートより更に合理化が進んでいる。そこには、冷蔵庫、炊飯器、電気ポット、ミキサー、トースターなど沢山の家電製品が並んでいる。家電製品の普及によって主婦の家事労働が更に軽減された。そして食事の場は、同潤会アパートは台所とは別室の畳の間で、丸い卓袱台であった。対して、赤羽台団地は台所と食事の場が一体化した板の間で、テーブルと椅子になっている。今では当たり前のダイニングキッチン、当時は画期的なものであり、「台所は主婦のお城」といわれたそうである。眺めていると50年前の生活が思い出されます。